



Vamos juntos



文責 小坂佑騎

Vamos juntos

この通信のタイトルの意味と願いを紹介します。”Vamos juntos”とは、「ともにいこう」という意味です。この通信を通して、私の活動の様子だけでなく、日本人のブラジル移住の歴史や現在の日系社会についても広く皆さんに知っていただきたいという願いがあります。どれだけのことを紹介できるかはわかりませんが、この通信を作りながら私も日系社会について学び、理解を深め、日本と日系社会を繋げていけたらと思っています。

自己紹介

小坂佑騎 佐久市出身 信州大学教育学部卒（現在の所属 安曇野市立穂高西中学校 教諭）
ブラジル連邦共和国サンパウロ州ミランドポリス市第一アリアンサ村へ日系社会青年ボランティアとして派遣されます。任期は2019年7月22日から2021年3月20日です。8月3日現在、私はサンパウロ市にあるJICAブラジルで、ブラジル理解の研修やポルトガル語の研修をしています。左の写真は2019年度1次隊ブラジル派遣のメンバー、右の写真は、在ブラジル長野県人会会長の篠原オラシオ裕之さん、小坂および、長野県から私と同じくブラジルへ派遣されたソフトボール隊員の矢野口功司さんです。



任地の紹介

まず、日系社会について紹介します。日系社会とは海外へ移住し、その地の国籍を取得した人々から形成される社会です。つまり、日系1世の方々は海外での成功を夢見て、移住先を開拓した日本人であり、最初の移住から150年以上の歴史があります。ブラジル移住は1908年（明治41年）

から始まり、1993年まで日本から多くの日本人がブラジルへ渡りました。昨年はブラジル移住110周年を迎え、ブラジルでの日系人の人口はおよそ190万人といわれています。ちなみに、日本各地に存在する「長野県人会」がブラジルにもあり、ブラジルの長野県人会が今年創立60周年を迎えます。

では、私の赴任する”第一アリアンサ村“とはどんな土地なのか少し紹介をします。アリアンサとはポルトガル語で「婚約指輪」や「同盟」という意味があり、梓川村（現松本市）出身の輪湖俊午郎氏が命名しました。アリアンサへの移住にあたり、中心となって尽力されたのが、永田稠氏、輪湖俊午郎氏、北原地働造氏で、いずれも長野県出身の方です。永田氏が信濃教育会に働きかけ、貴族院議員の今井五介氏の協力を得て、長野県知事を総裁とする信濃海外協会を発足させ、アリアンサの創設に奔走しました。当時の長野県知事梅谷光貞をはじめ、多くの人々の協力を得て、様々な課題を乗り越え1924年（大正13年）に第一アリアンサが開設されました。

長野県の人々が中心となって作りあげられた土地、第一アリアンサ村。長野県に大変ゆかりのある土地であることを、今回の派遣に際して任地の勉強をするうちに知りました。ぜひ、アリアンサについて多くの方々に知ってもらえるよう、これから活動内容も含めて紹介していきたいと思えます。

参考文献：「共生の大地 アリアンサ」（木村快 著）

